

年頭所感

新年挨拶



大阪府町村長会会長 上垣 正純

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年の干支は「丁亥（ひのとい）」です。諸説は様々あるようですが、「丁（ひのと）」はほのかな火を象徴しており、「亥（い）」は生命力が種子の中に閉ざされ、爆発的なエネルギーを秘めている様子を表しているそうです。

前回の「丁亥」は1947年（昭和22年）でした。日本国憲法が公布され、日本が民主国家として産声を上げた年です。また地方自治法や教育基本法、労働基準法等が施行され、明治以来の中央集権国家から民主国家・地方自治制度への枠組みが形成され、第一回目の「統一地方選挙」も実施された年であります。

今年で60年を経ましたが、今、私たち地方自治体には、市町村合併の進展と道州制の議論・財政再建と行政改革の断行・地方分権の一層の推進・地方と都市における不均衡の解消等々、大きな克服すべき課題が山積しております。個々の町村においても多種多様な課題が山積しており、各町村長は10年後の我が町や村は、「単独で健全な行財政運営を確保しているのか?」「どこかと合併しているのか?」「財政再建団体に転落しているのか?」日々思い悩みながらも、明日に向かって最大限の努力を行っているところであります。

また、我が国の景気は戦後最長の「いざなぎ景気」を抜きましたが、中小零細企業や我々弱小町村には、まだまだその実感が湧いてまいりません。また地方より国の財政再建を優先した19年度の国家予算（案）等、たいへん厳しい財政環境の中にあっても、私

たちに課せられた福祉や教育、また地域の安全など住民生活の基本となる施策には、今後もしっかりと対応し、活力ある元気な地域づくりに努めなければなりません。このため、本年もまさに生き残りを賭けて「猪突猛進」全力をあげて更なる行財政改革を断行し、地域の発展と住民福祉の向上に取り組んでまいり所存でございます。

さて、昨年9月に安倍内閣が誕生し、所信表明の中で「美しい国、日本」を国民と一緒に創りあげていくとの決意を述べられ、「地方の活力なくして、国の活力はない」とも述べられました。私は「美しい地方なくして美しい日本はない」「地方の繁栄なくして国の繁栄はない」と思っております。

このため、分権型社会の創造は不可欠であります。国と地方の役割分担と税財源配分の見直しのもとに、住民に最も身近な行政主体である市町村自らが、政策や財源の用途を決定し、地域住民の意向に沿った行財政運営を行うことが重要であると考えております。昨年末に成立しました地方分権改革推進法の施行に際しては、地方の意見を十分に反映して頂き「真の地方分権の確立」が実現することを期待するものであります。

一方、昨年は地方自治体職員の不祥事が連日報道され、国民の厳しい疑念の眼差しが地方自治体に向けられました。誠に残念な事であります。全ての職員がもう一度襟を正し、強い決意のもと、信頼の回復のため公平公正な職務に徹し、全体の奉仕者として住民の負託に堪えてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

おわりに、本年が、素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。